

平成30年度 学校評価

学校経営方針					学校関係者評価のポイント
校訓「理想・優雅・自主自律」の下、学習指導や生徒指導、進路指導の一層の充実を図るとともに、すべての教育活動をとおして、生徒が主体的に活動する場面を展開する。また、自信と誇りを持たせ、自己肯定感を高めることで「知・徳・体」の調和のとれた人材の育成に努める。					*自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 *自己評価の結果は指標等とともに妥当なものであるか。 *自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適当であるか。
教育目標					
(1) 生徒の基本的な生活習慣を確立し、誠実で気迫に満ちた人間性を涵養する。 (2) 生徒の主体的な学習姿勢を育み、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 (3) きめ細かな学習指導と進路指導をとおして、生徒の自己実現を図る。 (4) 地域や社会の発展に向けて、主体的に貢献しようとする態度を育成する。					
今年度の重点目標					
(1) 生徒会活動及び部活動、ボランティア活動等の充実に努める。 (2) 生徒の学習習慣の確立及び学力の向上を推進する。 (3) キャリア教育を推進し、生徒の進路目標の実現と人格の完成を目指す。 (4) 魅力に溢れ、地域から信頼される学校づくりに努める。					評価 4 : 十分達成 ⇒ 3 : 概ね達成 2 : 検討の余地あり 1 : 不十分
重点目標	評価項目	具体的方策または具体的指標	自己評価	成果及び改善策	学校関係者評価
(1) 生徒会活動、部活動、ボランティア活動	活動の場の設定	・生徒の自主性を育成する。 ・授業や学校行事等をとおして、個人の能力を最大限に引き出し、積極的に行動できる人材を育成する。	3	・生徒会役員選挙に多数の立候補者が出たことからもわかるように、生徒会や学校行事での生徒の自主的な活動が多く見られた。特に生徒会の活動は例年になく活発であった。今後も忙しさを楽しむくらいの心意気で様々なことにチャレンジしてほしい。改善策として、より効果的な活動にするために、事前準備と事後の振り返り等までしっかりと取り組ませたい。	3
	主体性・協働力の育成	・基本的生活習慣を確立させる。 ・何事にも意欲的に取り組み、計画性をもった行動ができる人材を育成する。 ・個の特性を活かしつつ、幅広い視野の育成に努める。 ・下級生の模範となる「自主自律」の学校生活を確立し、最高学年としての自覚と誇りを醸成する。	4	・特別指導の生徒がほとんど出なかったのは非常に良いことだ。今後、予想されるSNSトラブル等への対策を早急に検討していきたい。 ・新しい大学入試制度への対応を進めているが、まだ不確定な部分もあり、来年度以降も情報を整理しながら引き続き検討していく。 ・3年生は、葵碧祭等の学校行事で最高学年としての責務をよく果たした。卒業式前のトイレ清掃の企画では、自主的な動きが見られ、最高学年としての自覚と誇りをよく示してくれた。	3
(2) 学習習慣の確立、学力の向上推進	主体的学習姿勢を育む授業の実現	・学習習慣を確立し学力向上に努める。 ・読書活動の推進に努め、読書をとおして、優れた知性と豊かな心を培い、自己の在り方・生き方を探究する態度を育成する。 ・主体的に発展的な学習の習慣を確立し、将来の扉を開く「確かな学力」を身につける。	3	・昨年度から適切な課題のあり方や学習の定着を検討してきたが、入学前の、学習に対するより良い習慣(予習・復習・授業・睡眠・スマホなど)をつける手立てが必要である。 ・学校司書エリアコーディネーターとの連携により図書館運営の活性化が進んだ。 ・高校総体後、放課後・長期休暇や土日の休業日に自主的に学校に出てきて勉学に励む生徒が多く現れた。AO入試に対応した取り組みは1年生から実施すべきであった。	3
	探究型学習の推進	・特色ある学校づくりを推進する。 ・学科・類型の特性を活かした教育課程を編成する。	3	・西高タイムを希望制とし、生徒が進路希望に応じて主体的に取り組めるようにしたが、さらに、組織的に改善し発展させていく。 ・フロンティア科独自のF学におけるパワーポイントを用いたプレゼンテーションは、準備が大変だが、生徒の将来を考えると大変有意義な時間になっている。	3
(3) キャリア教育の推進、進路目標の実現、人格	ICT活用能力の向上	・ICTを活用したポートフォリオ作成を効果的に進めいく研究を推進する。 ・校務支援システムの効率的運用と活用促進。	3	・行事の振り返りを中心にClassiを活用した。活用のための組織作りが課題。 ・校務支援システムが導入されて4年が経過し、各先生方にも浸透してきた。さらなる活用法を模索していきたい。 ・ポートフォリオの作成をはじめ、新システムに対応する職員の研修等を検討すべきである。	3
	新大学入試への対応	・生徒の進路希望を把握するとともに、入試制度改革に関する情報収集・周知に努める。	3	・文部科学省や大学入試センターが発表する情報に注意を払い、各教科での研究を促した。	3
	生徒の自己実現	・生徒への進路情報提供の充実をとおして、進路意識の醸成に努める。 ・各種委員会活動をとおし、生徒の意識改革や自発的活動の充実を図る。	3	・校外での体験を促進するための情報提供や取りまとめを活発に行った。 ・個々の自主的な活動の推進は積極的に行えたが、委員会活動の活発化に関しては、もっと工夫が必要である。	3
(4) 魅力に溢れ、地域から信頼される学校づくり	地域から信頼される学校づくり	・家庭や地域、関係団体と建設的な関係を築き、「開かれた学校」づくりに努める。 ・本校PR活動における多面的な方策の立案を行う。 ・本校窓口としての適切な接遇を心がけ、学校のイメージアップに努める。	3	・PTA活動では、活動内容や活動日程の精選により保護者の負担軽減を図ることができた。 ・ホームページだけでなく新たに公式インスタグラムを開設し、日々学校の日常を投稿している。浸透してきており、好評を得ている。 ・事務窓口は、休憩時間を工夫し、生徒が利用しやすい環境づくりに努めた。	3
	地域教育力との連携	・関係機関との連携を図る。 ・防災訓練及び防災教育をとおして、災害に対する指導の充実を図る。	3	・防災や交通安全の指導に、消防署や警察署などの協力を得、ご指導をいただいた。専門家の視点で、的確な助言をいただけた。	3
	地域で活躍する人材づくり	・ボランティア活動をとおして、地域との繋がりを強め、将来地元に貢献できる人材を育む。	3	・本校のボランティア活動については、市役所や社会福祉協議会等から多くの活動機会を得ているが、模試や登校日と重なり応えられないこともある。	3

